

灯



最近盛んに報道されている看護師不足。原因は昨年四月に施行された診療報酬改定で、病院は看護師を相当数増やさないと減収になるといふ。

そこで各病院は看護師の確保に一齐に動きだし、東大病院は前年比三倍、京大病院は二倍と有名病院も大幅に採用枠を増加している。

わが学園からも初めて京大病院に内定者が出ている。

十年ほど前、厚生労働省が二〇〇〇年には看護師は充足する、と発表したが医療関係者で

充足を信用する人は少なかった、と記憶している。都市部の有名病院が好条件で大量採用をすれば地方の看護師たちの都市

への大移動が始まる。結果として地方の病院は病棟閉鎖に追い込まれている所も出てきているといふ。

この状況が続けばいずれ地方から医療機関がなくなってしまうことも考えられる。現に真内

2 不足 その看護師 差格



草野 義輔

三位の都会にある中津市民病院でさえも産婦人科医師がいなくなる大騒ぎになっている。

わが校の看護学科では地元で大学がないので久留米市、大分市などから大学の先生を旅費、宿泊費込みで招いている。都市

部の養成学校ではおおむね不要の経費だ。地方で養成するには都市部より数段苦勞が多いが、厚生省はさらに看護師養成の条件を厳しくする検討が行われており、このまま行けば大学のある都市部以外では看護師の養成は不可能になるおそれもある。

そうなれば地方は医療施設が維持できなくなり、それは生きていく場所ではなくなるといふことでもある。ここからも深刻な格差の問題が浮かび上がってくる。

政府は地方をどうするつもりだろうか。いっそのこと地方は切り捨てるので都市部への移住を検討しなさい、くらいのことを言ってくれた方がよほどすっきりするかもしれない。

(日田市昭和学園高校理事長)